

都城の歴史1万人に伝承

都城島津邸入館者1万人突破

3月27日に開館した都城島津邸の入館者が1万人を突破したのを記念して、7月17日に記念式典が行われました。入館者、1万人目となった那須由美さん（上長飯町）は、この日が誕生日。小西教育委員長から絵はがきや年間パスポートなどが送られたほか、ボランティアガイドから邸内の案内を受けました。1人で訪れた那須さんは「思いがけないお祝いになり、いい記念になりました。今回もらった年間無料パスポートで家族と一緒に来ます」とサプライズと喜んでいました。



在りし日の面影をしのぶ

名誉市民宇都逸郎先生市葬

旧高崎町において平成10年12月高崎町名誉市民、合併後においては第1号の都城市名誉市民の称号を贈られた宇都逸郎先生（享年91）の市葬が7月17日、市内の葬祭場でしめやかに行われました。当日は、市民をはじめ国会議員や県議会、市議会、市の関係者ら約450人が参列。宇都先生の在りし日の面影をしのびました。葬儀委員長の高峯誠市長が「郷土をこよなく愛し、郷土発展のために尽くしてこられた宇都先生、あらためて心からの感謝の誠を捧げます」と故人を惜しみ弔辞を述べました。



言葉の壁を越えた交流

モンゴルの学生と交流

全国高等学校総合文化祭の国際交流事業に参加するため、来県していたモンゴル国立音楽舞踊学校の生徒15人が7月29日、都城西高校を訪れました。生徒たちは、モンゴル独特の弦楽器の馬頭琴や打楽器のヨーチンなどを使った演奏を披露した後、茶道や折り紙などの日本文化を体験。西高の生徒たちと、ジェスチャーを交えながら和やかに交流していました。初めてお点前を受けたノミンさん（13歳）は「モンゴルのお菓子より甘すぎず、お茶も苦くなくておいしい」と笑顔で話していました。



優しいリサイクルの音色が響く

夏休み！作ろっ！エコ作品

ごみとして捨てられたものから作品をつくることでリサイクルに関心を持ってもらおうと、夏休み！作ろっ！エコ作品が8月7日、21日の2日間、リサイクルプラザで行われました。2日間で親子12組が参加し、空き瓶を加工した風鈴作りに挑戦。参加者らは自分で選んだ材料をくつつけたり、ひもでつないだりして個性豊かな風鈴を作り上げていました。柳田蒼太くん（勝岡小1年）は「自分で選んだいろんな材料を重ねてつくるのが楽しい」と独自の組み合わせを試していました。





これで夏休みの宿題は出来上がり 夏休み親子ふれあい木工教室

親子で協力して一つの作品を作り上げる夏休み親子ふれあい木工教室が8月8日、山之口勤労福祉センターで行われました。15回目となる今回は、山之口地区内の小中学生とその保護者77組が参加。指導員が説明した後、参加者らは都城産の杉の間伐材を使い、靴箱や長いす、木片を利用した置物などの制作に試行錯誤しながら取り組んでいました。村岡実希乃さん（山之口小5年）は「出来上がるか不安ですが、夏休みの自由研究で出そうと考えているので頑張ります」と笑顔で答えていました。



ふるさとの霧島を世界の霧島に 日本ジオパーク認定申請現地審査

貴重な地質遺産が残る自然公園として世界登録を目指している霧島ジオパーク。登録の前提となる国内認定を審査する委員らが8月18日、市内のジオスポットを訪れました。委員らは前日からの霧島山西部と北部の視察に続き、御池や世界一の規模を誇る甌穴群のあ関之尾滝などを見て回り、現在の保全状態や観光活動への活用状況などについて調査しました。関之尾滝を案内した関之尾むかえびとの会の奥田正明会長は「関之尾の魅力をもっと多くの人に伝えたい」と話していました。



大淀川107キロの最初の一滴 夏休み親と子の大淀川源流見学会

水辺の環境を調べることで環境問題に関心を持ってもらう夏休み親子と子の大淀川源流見学会が8月20日行われ、親子連れら33人が参加しました。一行はまず、末吉町にある中岳ダムを見学、ダムの役割や構造を学んだ後、約1キロ上流にある大淀川の源流に移動。宮崎県環境保全アドバイザーの岩切淳さんの指導のもと水質を検査するパッチテストや水生生物の観察を行いました。参加者らは岩のすき間から染み出す冷たい水に手を浸したり、サワガニを見つけたたりしては歓声を上げていました。



男子厨房に立とう メンズ・イン・ザ・キッチン

生活習慣病の予防対策の一つとしてバランスのとれた食事や規則正しい生活の仕方を学ぶメンズインザキッチンが8月21日、市民健康センターで行われました。今回初めて料理をする人を含めた22歳から68歳までの14人が参加。調理器具の使い方などを学んだ後、キャベツのおひたしやさばを使った炒め物、カボチャのサラダを悪戦苦闘しながら調理してしました。井上明人さん（北原町）は「普段料理をしないので、習った料理を妻に食べさせたい」と笑顔で答えていました。





モーモーマー母ちゃんの集い宮崎大会

実行委員長 飯盛 由紀子さん



全

国の畜産農家の女性が集まり、畜産農家が抱えている問題や将来を女性の視点で語り合う「モーモーマー母ちゃんの集い」。平成24年に開催される宮崎大会の準備のために奔走しているのが実行委員長である飯盛由紀子さん（高城町石山、49歳）です。

「牛中心の生活で餌をあげたり牛舎の掃除をしたりと、何もかもが新鮮でした」と当時を振り返ります。平成4年に親から経営を任せられたことで、どんぶり勘定であっ

た経営を数字で管理するために、パソコンや簿記経営講習を受講。また、今では、県が認定をしている農村女性指導士としても活躍している子どもたちの農業体験や食育指導などを行っています。

この集いに興味を持ったのは、第3回島根大会に友人に誘われて参加したのがきっかけ。「全員が畜産に対する共通の問題や思いを持っているので、すぐに長年の友人のようにうち解けることができ

た」と話す飯盛さん。

現在は、口蹄疫の影響で、畜産農家が集まる会合などが自粛されていたため、準備が遅れているが「畜産に興味のある人なら誰でも参加できる大会。口蹄疫が発生して以来、全国の人から励ましの電話やメールをもらった。元気になることが恩返しだと思っっている。で、県内の母ちゃんたちと一緒に盛り返していきたい」と成功に向けて意気込んでいます。

都城讃歌

【わがふるさと都城】

小林 和昭さん



小林 和昭
(こばやし かずあき)

◎プロフィール

昭和46年生まれ。都城泉ヶ丘高校卒業
現在は経済産業省貿易経済協力局技術協力課課長補佐

経済産業省に勤務して14年目になりました。研究開発支援や国会対応の担当をしたり、南米ベネズエラ共和国の日本大使館で勤務したりと、ローカルなものからグローバルなものまで多種多様な仕事を経験する中で、都城で身についたものに助けられることがしばしばあります。

少し近づけることができたり交友が広がったりして、思いがけず仕事に生かされることもありました。そんなとき、私の中にも、どこかしらに都城のもてなしの心が息づいていて、知らず知らずじみ出ているのかもしれないと思います。都城で暮らしていた若い頃には気づいていなかった故郷のよさが、中堅とよばれる年代になって、自身自身を助けてくれるものだと実感するようになりました。

これからも都城の心を大切にしながら人と接していきたいと思えます。そして、自分を育ててくれた都城に少しずつでも恩返しをしていければと思っています。

学校へ行こう

西岳小学校

美川町2928 ☎33-1602



まだまだやるぞ西岳つ子！

6年 津曲 千生さん
6年 中越 海人さん

西岳小学校は、県道都城霧島公園線沿いの緑豊かな学校です。まず、目に飛び込んでくるのは、運動場いっぱい広がる芝生です。これは、昭和48年にぼくたちの先輩や保護者、先生たちが植えられたもので、ほかにも、いろいろな種類の木々を植えられました。今では、大きく育った木のおかげで、クワガタ採りや緑陰給食もできます。西岳小の自慢は、全校児童で行うことが多いことです。太鼓クラブや棒踊りの伝承活動に、全校生徒で取り組んでいます。

一輪車も全校で練習し、みんな上手に乗れます。田植えや芋植えにも全校で取り組み、収穫祭では、地域の人も一緒にもちつきや焼き芋をして楽しみます。また、昼休みや週1回の元気タイムには、みんなでよく遊びます。遊びだけではなく、月1回の「7の日」は、放課後にみんなで一緒に学習します。みんなが兄弟姉妹のように仲良く一生懸命に勉強しています。そのほか、西岳中と合同でスポーツフェスタやクリーン作戦を行うなど、先輩方と一緒に活動することもあります。今年103年目を迎える西岳小の多くの伝統をこれからも伝えていきたいです。



◎学校のシンボル
「オガタマの木」
平成3年に学校の木に制定されました。夏には、涼しい木陰を作り、雨風にも耐えて、毎日私たちのことを優しく見守ってくれています